

製造業(産業機械軸受、精密機器関連製品、自動車軸受、自動車部品等の製造販売)

# 日本精工株式会社 日本で初めて軸受(ベアリング)を開発・量産

**創業**  
**101年**  
創立：1916(大正5)年  
資本金：672億円  
本社所在地：東京都品川区大崎1-6-3(日精ビル)  
電話番号：03-3779-7111(代表)

代表者：取締役 代表執行役社長・CEO 内山 俊弘  
従業員数(連結)：31,501名  
売上高(連結)：9,492億円  
URL：http://www.nsk.com/jp/

\*2017年3月31日現在

大手企業



風力発電機用軸受には、20年間メンテナンスなしで回転続ける信頼性が求められます



1台の車には、100~150個の軸受、ステアリング、変速機部品など多くの部品が使われています



NSKが生産した大型軸受



## 日本の近代化を推進し、世界的軸受メーカーへ

初代社長の山口武彦は特許局を退官し、2年の欧米視察後、洋釘の国産化や機械輸入商社の山武商会(現・アズビル)、工業用酸素メーカーの日本酸素(現・太陽日酸)を設立。その後、産業を支える機械部品である軸受の将来性に着目し、1914年に当社の前身である日本精工合資会社を設立しました。当時、日本で最高の技術力を持つ海軍が実現できなかった軸受の開発に挑戦、1915年に日本初となる軸受を完成。翌年、量産のため当社を創立しました。大戦中は、日本最大の軸受メーカーとして国の増産要請に



左 初代社長 山口武彦

右 昭和初期の研磨ライン(1930年本社工場(大崎))

応え、戦後は生産の拡充や効率化、新製品開発を進め、自動車、鉄道車両、紡績、鉄鋼、家電などさまざまな産業に製品を供給し、日本の復興、高度経済成長に貢献しました。現在では、世界有数の軸受メーカーとして、世界トップレベルの高品質な軸受、工作機械やIoTを支える精機製品、省エネ・安全を支える自動車部品などを供給し、産業の発展と環境保全に貢献しています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の道標

#### 「選択と集中」で事業を改革



10代目 取締役 代表執行役社長・CEO 内山 俊弘

当社は、精密加工をはじめとする軸受技術の活用や海外企業との提携によって1950年代後半から事業の多角化を進め、自動車用のステアリング、シートベルト、自動変速機用部品、さらには工作機械に使われるボールねじなどの製品を生み出し、時代をリードしてきました。その後の環境変化や経済危機の中、シートベルト事業などの不採算事業から撤退し、中国などの新興国市場や電動パワーステアリングなどの成長分野市場に集中投資を行うことなどで、収益性と成長を実現してきました。

### 地域とともに ■ 社会に貢献し、ともに成長を続ける

当社は、世界30カ国で事業を展開する売上高約1兆円のグローバル企業に成長しました。創立100周年の前年2015(平成27)年には、10年後のありたい姿として『NSKビジョン2026』を策定。「あたらしい動きをつくる。」ことで「円滑で安

全な社会」と「地球環境の保全」に貢献し、社会とともに成長を続けていきます。翌年にはこの新しい動きを紹介するさまざまなイベントを実施したほか、「(財)NSK奨学財団」の設立や品川区内の児童への自転車用ヘルメット寄贈を実施しました。



製造業(光学機械器具の製造ならびに販売)

# 株式会社ニコン 日本を代表する光学機器メーカー

創業  
100年

創業：1917(大正6)年  
資本金：654億7,600万円  
本社所在地：東京都港区港南2-15-3 品川インターシティ C棟  
電話番号：03-6433-3600(代表)

代表者：代表取締役 兼 社長執行役員 牛田 一雄  
従業員数：25,031名  
売上収益(連結)：7,492億7,300万円 \*2017年3月31日現在  
URL：http://www.nikon.co.jp



一眼レフカメラ「Nikon F」1959年 発売



左上 デジタル一眼レフカメラ「D850」  
2017年発売

右上 超広角走査型レーザー検眼鏡  
「California」2015年発売

左下 FPDスキャナー「FX-68S」2016  
年発売



## 光の可能性に挑み、 進化し続ける

ニコンの前身である日本光学工業が設立された翌年の1918(大正7)年、大井製作所(当時：大井工場)が新設され、企業活動の拠点となりました。京浜東北線大井町駅(当時：京浜線大井町駅)から工場までの約1キロメートルの道は多くの社員が通勤に使用。優れた光学機器の国産化を目指して通い続けた道は、いつしか「光学通り」と呼ばれるようになりました。大井製作所に1933(昭和8)年に完成した101号館(当時：1号館)では、1948(昭和23)年発売の小型カメラ「ニコンI型」、1959(昭和34)年発売のニコン初のレンズ交換式一眼レフカメラ「ニ



左 1933年竣工。4階建て大井新工場1号館

右 2016年3月。取り壊し直前の101号館

コンF」などを生産してきました。101号館は2017年に解体されましたが、ニコンファンの方々からは「聖地」とも呼ばれ、社員含め多くの方の心に強く、深く刻み込まれています。ニコンは創立以来、光を見つめ、光を追求し、光の可能性に挑み、光学技術の先駆者としての道を国内外で切り開いてきました。100年のご愛顧に感謝し、企業理念である「信頼と創造」をこれからも掲げ、希望に満ちた未来の実現を目指します。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた



代表取締役 兼  
社長執行役員  
牛田 一雄

## 高品質な「ものづくり」の精神を代々受け継ぐ

創立以来、光利用技術と精密技術をベースに、映像文化や学術、産業の発展に貢献するとともに、未知の領域を切り開く製品を提供してきました。事業環境の激変に対応して多くの困難を乗り越え、ニコングループは、2017年7月25日に創立100周年を迎えました。その間、質実剛健ともいえる社風にはぐくまれ、高品質な「ものづくり」の精神を代々受け継いできました。ニコングループは新たな価値を提供し、次の100年においても、人々の暮らしに貢献する企業グループであり続けたいと思います。

## 地域とともに ■品川区内の中学生が職場を訪問

毎年、品川区内の中学生が課外授業として大井製作所を訪問しています。ニコンの事業や製品、担当業務の説明のほか、仕事の楽しさや面白さなどを伝えました。社員とのふれあいや質疑応答を通して生徒が社会

における企業の役割を理解し、将来の生き方を考えるとともに、将来進む道を考える上で役立つことを期待しています。今後も地域の方々とのさまざまな活動を通じ、社会や地域への貢献活動を続けていきます。



大手企業

# 東洋製罐グループホールディングス株式会社

包みのテクノロジーを  
基軸として、人類の  
幸福に貢献する

創業  
100年

創立：1917(大正6)年  
資本金：110億9,460万円  
本社所在地：東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング  
電話番号：03-4514-2000(代表)

代表者：代表取締役社長 中井 隆夫  
従業員数：397名(連結18,490名)  
売上高：7,794億円(2016年度) \*2017年3月31日現在  
URL：http://www.tskg-hd.com/



右上 飲料用の缶、ペットボトル、ガラスびん  
右下 飲料用のガラスびんとマキシキャップ、  
コーヒー用カップ

大手企業



## 我が社の 百年譚 包装容器づくりのリーディングカンパニー 時代のニーズに応えた包装容器を 供給し続ける

1917(大正6)年、米国で缶詰事業に携わった高崎達之助が、日本でも缶詰業と製缶業の分離が必要と感じ、大阪で東洋製罐株式会社を創業しました。その2年後には米国から自動製缶機を購入し、ぶりき製の缶詰用缶の製造を開始。需要の拡大にともない、この東五反田に東京工場を建設しました。同工場には大型ぶりき印刷機を導入して製缶事業をさらに拡大し、関東大震災を機に缶詰用缶のほかにも美術缶などの需要が増加したことから、工場を増築して生産規模を上げていきました。戦後しばらくは物資不足から紙製缶を製造していましたが、次第にぶりき製の缶



昭和20年代東京工場



昭和20年代自動製缶機

主体に戻り、1967(昭和42)年には美術缶の専門工場となりました。2000(平成12)年に横浜工場との統合により東京工場は閉鎖され、その跡地に現在本社が置かれる大崎フォレストビルディングが2011年に竣工。2013年に持株会社体制に移行し、現社名に商号変更しました。当社グループには包装容器の各分野のトップメーカーがそろい、その優れた技術力で包装容器業界を支えています。

### ▶▶▶ こうして危機を乗り越えた

転換点の  
道標



代表取締役社長  
中井 隆夫

## 世の中のニーズに合わせて事業を組み替えてきた

1917年創業時の製品は、水産・畜肉・果物などを入れるためのぶりき缶でした。その後、アルミ缶、PETボトル、パウチと世の中のニーズに合わせて事業の組み替えを行ってきたことが、現在まで事業を継続できた大きな要因だと考えております。現在、グループ全体の売上高に占めるぶりき缶の売上は僅か数%です。これからも容器は重くて硬いものから、軽くて柔らかいものへと変遷していくと思います。常に時代を先取りし、新しいイノベティブな商品を世界に提供し続けることで人類の幸福に貢献してまいります。

### 地域とともに

## ■ 地域の豊かな都市環境の一翼を担う施設を目指して

本社ビルの1階に容器文化ミュージアムを設置し、容器包装の文化情報の発信や、夏休みイベントなどを開催して、地域の方をはじめとするさまざまな人々の交流に貢献しています。品川区のまちづくりビジョン「ものづくり

産業をリードする街」「地域産業と住宅との調和のとれた街」を具体化する施設を期待する地域社会の思いと、本社ビルにふさわしい文化・情報の積極的な発信機能を持ちたいという当社の思いが重なって、開設に至りました。

